

まえがき — 四シャとは？ —

家に出入りしたり、つきあつたりすると、家をつぶし、身を亡ぼすものに「四シャ」がある——とされてきました。医者（病気やみ）・易者（迷信になりやすい）・芸者（散財）・記者（ゴシップ）——です。実にうまい事をいうものだと感心します。四つのものでシシャ（死者）を意味します。

日本では、易でなく人相でも手相でもトランプ占いでも、易者としています。正しくは「五術家」といい、命・ト・相・医・山の五つの術で、人間をよりよくするのを、五術家というのです。四者は家を亡ぼすとしましたが、正しくは家をもりたてるのが五術家なのです。

この五術家には、明治以来、すぐれた名人、上手、はては奇人・変人といった人々が多く出ました。これを記したのが本書です。

佐藤六龍

平成二十五年九月

## 目次

まえがき	——四シャとは？	1
第一話	五術家列伝	7
	——世になくは困るもの	
第二話	高島嘉右衛門・吞象（どんしょう）	13
	——牢獄から生まれた高島易	
第三話	高島曆と柄沢正覚	27
	——『高島曆』誕生秘話	
第四話	雑誌『陰陽』と五術家たち	39
	——昭和二年のころ	
	——八百円の古書が十万円に化ける	
第五話	四柱推命と六龍（洩天機公開について）	51
	——日本における四柱推命の流れ	

第六話	雑誌『陰陽』と五術家たち——昭和四年のころ……	61
	——人相の名人・初代目黒玄龍子と二大弟子	
第七話	雑誌『陰陽』と五術家たち——昭和五年のころ……	70
	——月岡三籟の五行易納甲法	
第八話	高島易断から高嶋易断へ・名キャッチコピー……	79
	——黙って座ればびたりと当たる	
第九話	田畑大有の言葉……	88
	——合性は合わせ性・的的不的に一喜一憂するな	
第十話	大熊光山の戒め……	93
	——五行易三大悪書	
第十一話	五術家の世襲（上）……	100
	——芝の石竜子と目黒玄龍子	
第十二話	五術家の世襲（下）……	111
	——四代本国堂・見事な職養道	
第十三話	事件を起こした五術家……	121
	——高嶋象山、精神異常者に殺さる	

- 第十四話 続・事件を起こした五術家……………127  
 ——熊崎健翁と根本圓通の姓名三二画吉凶論争
- 第十五話 大島中堂死す……………136  
 ——周易の眞勢中州・新井白蛾の研究者
- 第十六話 文人易者・田中小実昌……………140  
 ——易者心得・テンタクリの危なきかな
- 第十七話 五術家外伝——周易の根本通明……………150  
 ——明治天皇に進講したバンカラ腐れ儒者
- 第十八話 人相を使わない人相の名人……………159  
 ——三益愛子の人相を見まちがえた桜井大路
- 第十九話 異色の易占家……………173  
 ——平沢流の喜八堂と河鍋魯安・焦氏易林流の岩谷赤丸
- 第二十話 気学を創作した人……………181  
 ——園田眞次郎・気学創作秘話
- 第二十一話 姓名術の大偉人……………191  
 ——熊崎健翁の占術大事業化

第二十二話	街頭の五術家たち……………	203
	——熊谷（くまがい）をかける！	
第二十三話	大熊光山（1） 附 菊地精典……………	211
	——本講義より面白い大熊光山の課外授業	
第二十四話	大熊光山（2）——光山相法を作る……………	224
	——画相名人のウラにはスサマジイ研究努力	
第二十五話	大熊光山（3）……………	234
	——墨色判断画相	
第二十六話	大熊光山（4）……………	241
	——服の柄まで見える画相	
第二十七話	手相の名人たち……………	251
	——西欧の手相原書と格闘した大和田斉眼	
第二十八話	手相をみない手相家……………	257
	——弟妹のことをズバリ当てた手相見？	
第二十九話	気学会の写楽 傑物・田中胎東（上）……………	266
	——独特の文体で魅了	

- 第三十話 気学会の写楽 傑物・田中胎東（下）……………272  
 — 師と弟子が逆転
- 第三十一話 周易の大物・加藤大岳……………281  
 — 昭和の世に周易を広めた功労者
- 第三十二話 ゴツキ本の大もの……………289  
 — 出雲又太郎・高木乗・大西正貢・桜井大路
- 第三十二話 記者あがりの易者・石川雅章……………298  
 — 熊崎健翁売り出しの功労者
- 第三十四話 五術家より心理学者へ・増永篤彦……………303  
 — プロマイドで生日十二運を当てる
- 第三十五話 職養道の達人・橘哲洲（上）……………308  
 — 食いつばぐれのない日切り易者
- 第三十六話 職養道の達人・橘哲洲（下）……………316  
 — 日本刀を持った気ちがいに巢手で立ち向かった日切り師